



3

2020
No.156

人と森をつなぐ情報誌

特集

“Sustainable Forest Action”

～異分野人材との協働による造林の課題解決～



詳細については「日本美しの森 お薦め国有林」のウェブサイト
(http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/)をご覧ください。



「日本美しの森 お薦め国有林」のご紹介

たかとりやま 高取山風景林 (奈良県)

【概要】

高取山風景林は、奈良盆地南部の高取山山頂にある高取城跡を中心とした風景林です。高取城は、国の史跡に指定されており、近世城郭（織田信長の安土城以降、江戸時代にかけて築かれた城のこと）では比高（麓から本丸までの高低差）が390mと日本一を誇ることから、美濃岩村城（岐阜県）、備中松山城（岡山県）とともに日本三大大山城の1つに数えられており、年間を通して多くの観光客が訪れています。

【見どころ】

高取城は、元和元年（1615年）の一国一城令の際には、貴重な山城として破却を免れたものの、明治6年（1873年）に廃城となりました。現在、天守閣等は残っていませんが、当時の規模のまま山上に累々と残る壮大な石垣は、往時を偲ばせます。

また、高取城跡からは、南は吉野大峰山系、西は大阪湾、北は万葉集にも歌われた大和3山をはじめとする奈良盆地一帯を見渡すことができます。

さらに、風景林周辺には西国三十三ヶ所めぐりの六番札所「壺阪寺」や「五百羅漢岩」があり、高取城跡とともに多くの人が訪れています。

【イベント等】

毎年、3月1日～31日には、高取城の城下町として栄えた土佐街道沿いにある古い町並みの町家や商店で雛人形を飾り公開する「町家の雛めぐり」が開催されます。特に、メイン会場にある17段500体の「天段の雛」は圧巻です。

また、同時期に、壺阪寺では、ご本尊の十一面千手観音菩薩の前に、21段2,020体のお雛様が美しく飾られる「壺阪寺大雛曼荼羅」が公開されます。このほか、3月末から4月上旬（開花状況によって期間は変わります）に夜桜拝観も行われ、境内の伽藍とライトアップされた夜桜が作り出す幻想的な世界を楽しむことができます。

【高取城跡へのアクセス】

○公共交通機関

奈良交通バス「壺阪寺前停留所」から徒歩約60分

○タクシー

近鉄吉野線「壺阪山駅」から高取城八幡口まで行き、下車後徒歩約20分

○自家用車

高取町観光駐車場（無料）から徒歩約90分

詳細は、「高取町観光協会・高取町観光ボランティアガイドの会」ホームページを御覧ください。
(http://sightseeing.takatori.info/event/20180701_welcome_takatorijyo.html)



上空からの高取城址



本丸の高石垣



壺阪寺夜桜（撮影：藤井金治）



3

2020
No.156

【表紙の写真】
甲斐駒ヶ岳と桜
山梨県北杜市武川

Contents

- 03 特集 “Sustainable Forest Action” ～異分野人材との協働による造林の課題解決～
- 08 林業成長産業化地域創出モデル事業⑮ 多様なFSC認証材の流通拡大によるクリーンウッド社会の実現
- 10 TOPICS 01 令和2年全国山火事予防運動
- 12 TOPICS 02 木材がふんだんに使われた東京2020大会選手村交流施設「ビレッジプラザ」が公開されました
- 13 TOPICS 03 普段の生活に自然の彩りを与える「つな木」プロジェクト
- 14 TOPICS 04 『世界に誇る 日本の「木の文化・木のおもてなし」を考える』
- 16 国有林野の取組 2019年度「わたしの美しの森 フォトコンテスト」表彰式
- 18 TOPICS 05 2020ミス日本みどりの女神からご挨拶



“Sustainable Forest Action”

～異分野人材との協働による造林の課題解決～

国産材の利用が進み、木材自給率が上昇傾向で推移する中、森林資源の持続的な利用を確保していくためには、伐採後の再造林が重要です。

再造林を進めていくにあたっては、植栽から下刈りまでにかかる高いコストや林業従事者の高齢化等による人手不足などの課題を解消していく必要があります。このため、早生樹の利用、特定母樹（エリートツリー等）由来の苗木の供給、下刈の機械化など造林の低コスト化・省力化の取組を進めています。

また、林野庁では、このような取組に加えて、異分野の人材との協働など、再造林のあり方を変える取組を始めています。本稿では、その中の一つ、林業関係者と異分野人材の共働による事業開発プログラム「Sustainable Forest Action（SFA）」について御紹介します。

SFAの仕組み

次世代林業リーダー
森林所有者、事業体、林業ベンチャー...

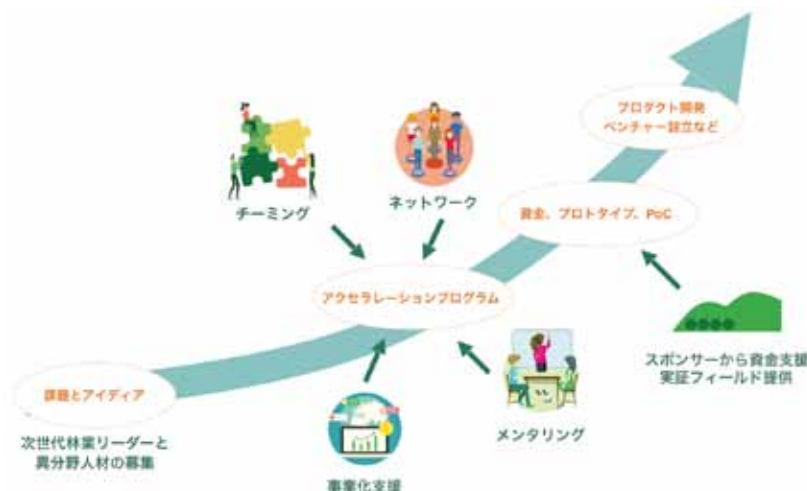
「ジブンゴト」としての
課題・アイデア提起



異分野人材
メーカー、ベンチャー、IT企業...

社会課題解決に向けて
独自の技術やノウハウを結集

SFAの流れ



SFAのプログラム

事業開発期間・メンタリング(約2ヶ月間)

キックオフ	林業体験会	中間合宿	デモデイ
9/26 @東京 13:00-18:00 ■会場: TechShop Japan 9/29 @京都 10:00-16:00 ■会場: 京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス	10/5 @静岡 島田市 10/27, 28 @岡山 西栗倉村	11/2 @東京 10:00-17:00 11/3 @東京 9:00-12:00 ■会場: TechShop Japan 11/3 @京都 16:00-20:00 11/4 @京都 10:00-12:00 ■会場: 京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス	12/7 @東京 10:30-17:30 ■会場: 日比谷国際ビル

異分野の技術・ アイデアの導入促進

近年、ICTやAIといった新技術の発展・活用が急速に進んでいます。林業分野は、他産業との交流の機会が乏しくこれらの新技術の導入が十分には進んでいない状況にありますが、林業のうち特に人力に頼る造林においても、これら異分野の技術・ノウハウ・ビジネスモデルの導入・活用を推進することで、森林・林業の関係者が難しいと考えていた課題について、発想もしえなかった解決策が生まれてくる可能性があります。

林野庁では、このような観点に立ち、昨年夏から、林業関係者と異分野人材の協働による事業開発プログラム「Sustainable Forest Action (SFA)」を実施しています。

昨年夏に事業を開始してからの経過は次の通りです。

8月

林業課題の解決の事業化に高い関心を有する者を募集。森林組合や苗木生産者などの林業関係者、ものづくりベンチャーやIT関係の専門家など異分野人材から100名前後の応募があり、69名の参加者を決定。

9月上旬

応募者に対するヒアリングを通じ、関心や意向、技術能力等に応じた14のチームを編成。

9月下旬



キックオフ京都



キックオフ東京



林業体験会（岡山県西栗倉村）



林業体験会（静岡県島田市）



中間合宿 京都



中間合宿 東京

林業の業界や課題の説明、事業開発の講義・ワークショップ等の内容とするキックオフイベントを東京と京都で開催。

9・11月

各チームにおいて、造林分野の課題解決につながる新たな商品やサービスの開発を実施。この間、林業体験会、中間段階での進捗確認を目的とする合同合宿をそれぞれ開催。また、新規事業開発経験者やエンジニア等によるメンタリング（助言）により、各チームの事業案のブラッシュアップを支援。

このような取組を経て、昨年12月、14チームが、投資家などの審査員に対して事業案を説明するデモデイ（最終審査会）に参加しました。デモデイでは、造林作業に従事する者の健康管理・労務管理を行うスマホアプリの開発など現場課題の解決につながる事業アイデアのほか、森林所有者に直接アプローチして森林や造林などに関心を持ってもらうためスマホアプリの開発、森林内を走行する電動式のムーバーの開発、森林所有者への収益の還元を可能とする木材流通の最適化プロジェクトなど様々な事業アイデアのプレゼンテーションが行われました。

予選・決勝戦と二段階で行われた審査の結果、環境教育の体験学習の場として、自伐林家の現場を活用し、自伐林家の収入をアップさせることで、伐採再造林を促すビジネスや森林所有者向けスマホアプリなど三つのビジ



SFA デモデイの様子
(事務次官による開会挨拶)



審査員からの様々な質問に応じる発表者



決勝進出チームによるプレゼンテーション



集合写真

ネスアイディアが最優秀賞・優秀賞に選ばれました。

入賞チームに対しては、スポンサー企業からの協賛金により、事業化に向けた支援が行われています。これらのチームでは、法人化や人材・資金の確保などの体制づくりや、試験的なコンテンツの作成など具体的な取組が進められています。また、入賞チーム以外のチームにおいても、さらなる実証等を行い事業化を目指すなど、意欲的な取組が行われています。

今後の取組

このように、SFAの実証により、造林分野においても異分野の方々の参画を促し、新たな事業開発のアイデアを掘り起こすことが可能であり、その余地が大きいたことがわかりました。このため、林野庁では、このような異分野の方々の参加による事業開発について、さらなる支援を行っていくこととしています。

具体的には、令和元年度補正予算において、事業化に向けた実証的な取組への支援を行うこととしています。また、令和2年度予算においては、SFAのようなマッチングや事業開発の取組に対し支援を行う予定です。

造林の現場課題の解決に向け、斬新なモノやサービスを開発し、新たなビジネスの創出をお考えの方々のご参加をお待ちしております。

入賞チームと事業の概要

チーム名	チームメンバー	事業概要	
最優秀受賞チーム 「森がたり」	上原 郁磨氏 (リデン株式会社・ソフトバンクテクノロジー株式会社) 小島 淳史氏 (自営業・フィールドワーカー) 田中 優哉氏 (林野庁より有志参加)	環境教育に興味があるユーザーに対して、バーチャル学習、現場での伐採・造林の体験、伐採した材を加工した家具をユーザーに届けるなどのコンテンツを提供。その現場に自伐林家の森林を活用することで、自伐林家の収入をアップさせ、伐採・再造林を促す。	
優秀受賞チーム 「森も視守る『まもり』」	木下 裕介氏 (住友商事株式会社) 石井 一成氏 (住友商事株式会社) 森下 昌彦氏 (株式会社NSD) 向井 祐貴氏 (株式会社NSD)	アナログでバラバラに存在する森林情報を、森林所有者が見やすく、デジタルで確認できるアプリ。個人の森林所有者が、適切な森林管理や相続・売買について、アプリ上で専門家に相談できるようになることで、再造林の放棄を防ごうとするもの。	
優秀受賞チーム 「森のコイン」	井上 達哉氏 (VUILD株式会社COO) 谷 茂則氏 (谷林業株式会社／一般社団法人大和森林管理協会)	山林の価値を自動評価し、森林所有者へコミュニティ通貨「森のコイン」を発行するサービス。このサービスを通じて、地元を離れる森林所有者と林業関係者との繋がりを再構築し、誰もが地域や企業の森づくり活動に参加することができるようになる事業。	

スポンサー一覧

●主催・運営		
林野庁	BEC 一般社団法人 ビジネス・エンジニアリング・センター Business Engineering Center	SPERO
●ゴールドスポンサー		
国土防災技術株式会社	PASCO Surviving the Earth to Create the Future	木と生きる幸福 住友林業
●シルバースポンサー		
ADDIX	GANYCOM	アジア航測株式会社 ASIA AIR SURVEY CO., LTD.
●メディアスポンサー		
日刊工業新聞社	モノづくり日本会議 モノづくりへの挑戦	
●メンタリングパートナー		
株式会社百蔵 HYAKUMORI		
●後援		
JFC 日本政策金融公庫		

静岡県浜松地域

多様なFSC®認証材の流通拡大による クリーンウッド社会の実現

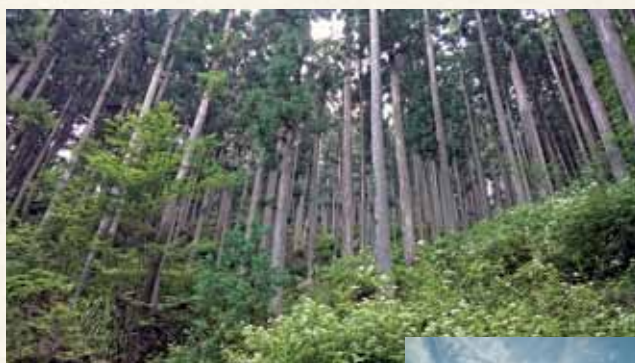
静岡県浜松地域の取組



1 浜松市における 森林・林業行政

本市は約16万ヘクタールという広大な面積を有しており、その約3分の2が森林です。浜松市天竜区及び北区引佐町地域の一帯は、その温暖な気候や河川交通路としての天竜川が存在などから、古くから林業が盛んでスギ・ヒノキを中心とした美しい人工林が形成されています。その美しさは「天竜美林」と呼ばれ、日本三大人工美林のひとつと称して、全国的な知名度や評価も高いです。

本市では、この価値ある森林資源を、持続可能な森林経営・管理を通じて循環利用していくために、平成22年に取得し



▲日本三大人工美林のひとつ天竜美林

▶天竜美林から伐り出された天竜杉

たFSC®認証を核として、様々な施策に取り組んでいます。

FSC認証は国際的な認証制度であり、世界的な祭事や式典において認証紙や認証材が使用され、本年開催予定の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会においても競技施設等に使用されることとなっています。また昨



今では、FSC認証の推進は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)への貢献につながるものとして、環境配慮や社会貢献意識の高い企業からも注目を集めており、認証材利用の機運の高まりが感じられます。

2 浜松地域の 林業成長産業化 地域構想

本構想によって目指すところは、本地域が、我が国におけるFSC認証のトップランナーとしてFSC認証材・認証製品の流通・拡大を通じて、合法伐採木材の利用100%によるグリーンウッド社会を実現させることです。

ポイント①

「木材利用の拡大無くして、素材生産量は増加しない」森林整備は進まないことを前提にした、出口対策、すなわち木材需要の開拓や木材の流通・販路拡大に重点を置いたもの。

ポイント②

本来のあるべき姿である、エンドユーザー起点のFSC認証製品サプライチェーンの構築により、川上から川下までの事業者にも多くの利益や雇用を生み出すもの。

ポイント③

地域の「素材生産」・「製材・加工」・「木材流通」のキープレイヤーが一体となった、大型木材会社依存しない地域(全国的に多い都市部モデル)を形成すること。



適切に管理されたFSC認証材

多様なFSC認証製品の流通拡大によるクリーンウッド社会の実現

～実現のための施策～

FSC森林認証制度を核にして、浜松方式の「森林資源の循環利用+ONE」による施策を展開していく。

【施策の柱】

- ① 品質の高い原木の増産及び需要に応じた原木の安定供給
- ② 需要に応じた付加価値の高い天竜材製品の開発・生産
- ③ 「地産地消」・「地産外需」の2方向による天竜材の流通・販路の拡大
- ④ 需要に応じた川上から川下までの最適なサプライチェーンの強化・再構築
- ⑤ 次代の林業・木材産業を担う人材の育成



ポイント④

「森林資源の循環利用+ONE」として、従来の循環利用に、「創る(イノベーション)」という新たなプロセスを導入したものだ。

3 構想の実現に向けた取組

本構想における数々のプロジェクトの中から、特徴的な取組を2つ取り上げて説明します。

(1) FSC 認証材の利用・発信

本市では、学校施設をはじめとした公共施設にFSC認証材を積極的に利用するとともに、FSCプロジェクト認証を活用し、認証材利用を対外的にアピールしています。

この対外的にアピールするということが非常に重要であり、FSC認証材利用から、さらなる次の利用を生むための呼び水となります。木材利用を拡大していくためには、「利用する」と同等に、「発信する」ことが必要不可欠だといえます。



平成30年度天竜材セールスミーティング



平成30年度にプロジェクト認証を取得した浜名中学校 (FSCの机椅子)



ジャパンホーム&ビルディングショー2019 への出展



参画事業者の若手社員のみで出展したWOODコレクション (モクコレ)



選手村ビレッジプラザへの納材出発式

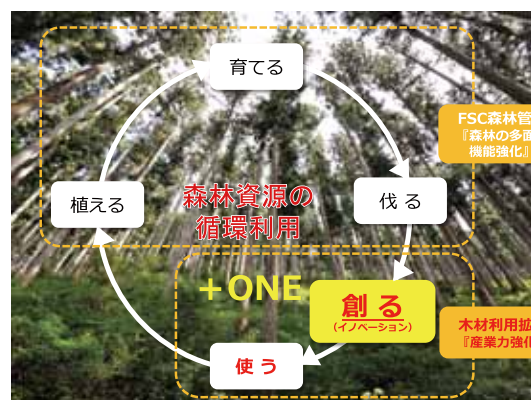


公共建築物として全国初のプロジェクト認証を取得した天竜区役所



大手オフィス家具メーカーと連携して開発したFSC認証製品

「森林資源の循環利用+ONE」



公共施設へのFSC認証材利用の発信については、このプロジェクト認証が有効な手段であり、これを進めてきたことによって、「浜松市」FSC認証材利用」という全国的な認知度も高まったと感じています。

(2) 都市部をターゲットとした地産外商

天竜材のいっそうの利用拡大に向け

天竜材(FSC認証材)・森林フィールド活用等による都市間連携・交流



ては、地産地消はもちろんのこと、地産外商が重要です。その中でも、消費者が多く、多くの木材消費量が見込める首都圏等の都市部への外商は今後の大きな鍵となつてきます。

本市では、天竜材の販路拡大やFSC認証材のPRを目的に、首都圏で開催される大規模展示会への出展や、市長自ら

4 これからの課題

のトップセールスにより天竜材を全国に売り込むセールスミーティングを実施するなど、全国の木材関連業者などに向けての天竜材の認知度向上や新たな交流の創出、大手企業や都市部の自治体の方々との情報交換の機会を増やしています。

今後取り組むべき課題として、都市間連携・交流が挙げられます。

これまでに説明した、FSC認証材利用の発信や都市部への地産外商を通じて、首都圏や関西圏、中京圏等の都市部との交流を深め、天竜材や天竜材製品の供給量拡大、また、浜松市の森林フィールドを活用した森林環境教育等の取組を増やし、関係人口、交流人口を拡大していければと考えています。

それによって、本地域のさらなる林業・木材産業の成長産業化につながると考えています。

令和2年全国山火事予防運動

林野庁では、3月1日から7日にかけて「全国山火事予防運動」を実施し、「守りたい 森と未来を 炎から」を統一標語として、全国で山火事予防意識の高揚を図る運動や、森林パトロール等を実施してまいります。

林野火災の発生（写真提供：福島県）

春は山火事にご注意ください

山火事は、例年春先に集中して発生します。この時期は、空気が乾燥し、森林内の枯草や落葉が燃えやすい状態になっています。さらに強風等の条件が重なると、たき火などから火が燃え移って山火事が発生し、焼損面積が拡大する危険性が非常に高くなります。また、山菜採り等で山に入る人も増えることから、たばこの火の不始末などによる火災発生に注意が必要です。平成31年（令和元年）においても、3～5月に多数の林野火災が発生し、特に、福島県郡山市や北海道雄武町で大規模な山火事が発生しました。

山火事は一旦発生すると、消火は容易ではなく、また、長い年月をかけて育てた貴重な森林を一瞬にして失うことになります。空気が乾燥している日や風の強い日には、たき火や火入れをやめるなど、特に火の取扱いに注意が必要です。

一人ひとりが火の用心を心がけ、日本の素晴らしい森林を守り、後世に引き継いでいきましょう。



山火事予防運動実施中
主催：林野庁・消防庁

「全国山火事予防運動」の今年のポスターには、静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校3年の椎野夏生さんの作品が、標語には、山口県私立柳井学園高等学校1年の有福美有さんの作品が選ばれました。



山火事予防パレード（写真提供：北海道森林管理局）

【近年の林野火災の発生状況】

区分／年次	H26	H27	H28	H29	H30	平均 H26 ～ H30
出火件数 (件)	1,494	1,106	1,027	1,284	1,363	1,255
焼損面積 (ha)	1,062	538	384	938	606	706
損害額 (百万円)	1,369	255	157	900	202	577

資料：消防庁統計資料に基づいて作成

出火件数と焼損面積を1日あたりに換算すると、全国で毎日約3件発生し、約2haは焼失していることになります。



空中消火活動（写真提供：山梨県）

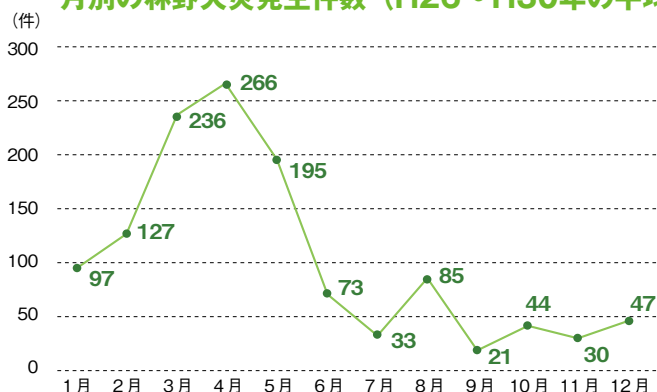


地上消火活動（写真提供：北海道）



現地対策本部（写真提供：北海道）

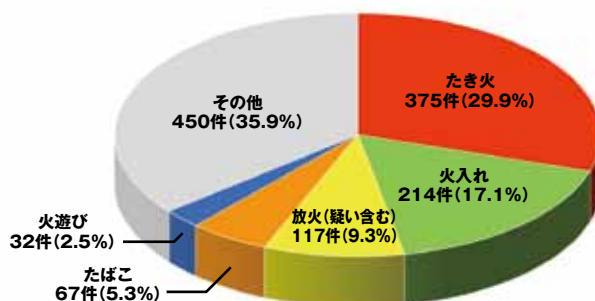
月別の林野火災発生件数（H26～H30年の平均）



資料：消防庁統計資料に基づいて作成

過去5年間（平均）で発生した林野火災の件数は、1,255件で、その半数以上は3～5月に発生しています。

出火原因別発生件数（H26～H30年の平均）



資料：消防庁統計資料に基づいて作成

過去5年間では、たき火で全体の約3割を占め、次いで火入れ、放火（疑い含む）、たばこの順となっています。

林野庁からのお願い

- ① 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと
- ② たき火など火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること
- ③ 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと
- ④ 火入れをする際は、市町村長の許可を必ず受けること
- ⑤ たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと
- ⑥ 火遊びはしないこと



山火事防止の
シンボルマーク
「まといリス」

「万が一」に備えて… 森林保険をご活用ください

森林保険 は、森林所有者を被保険者として、森林についての
火災、風害、水害、雪害、干害、凍害、潮害、噴火災による
損害を総合的に補償する保険で、平成30年度には風害や雪害を中心に
約7億円の保険金が支払われました。

山火事予防と併せて、山火事や台風、集中豪雨等への
備えとして、森林保険への加入をぜひご検討ください。

◆森林保険のお問合せ◆お近くの森林組合、森林組合連合会、または森林保険センターへ
(国研) 森林研究・整備機構 森林保険センター (代表) 044-382-3500

森林保険
イメージキャラクター
マモルくん



木材がふんだんに使われた東京2020大会選手村 交流施設「ビレッジプラザ」が公開されました



1月下旬、選手村宿泊棟の東側に建設中の選手村交流施設「東京2020大会選手村ビレッジプラザ」が公開されました。ビレッジプラザは大会期間中の選手の生活を支える選手村の代表的な施設です。公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ではオリンピック開催にあたって、環境に配慮した持続可能性への取組を進めており、ビレッジプラザにおいても、日本の伝統・文化を感じられるよう「木材を使用」することを開催都市立候補の時点から公表しています。

そこで組織委員会では東京都と協同して、大会後に各地にレガシー（遺産）を残すことを目的に、全国の木材を活用し、後利用を図る「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」プロジェクトを進めました。結果、42事業協力者（63自治体）から提供された約4万本（約1,300㎡）のスギ、ヒノキ、カラマツ、トドマツが使用され、和の空間が広がった施設（延べ床面積5,300㎡）となっています（4月に完成予定）。一般に流通している各地域の木材を様々な部位に使用し、設計段階から後利用の際に柔軟に対応できるよう構造、接合部材など様々な配慮がされています。使用された木材にはそれぞれに産地の焼き印が押され、一目でどの木材かがわかるようになっています。

ビレッジプラザでは、世界各国選手団の歓迎式典が行われるほか、花屋・雑貨店などの店舗、カフェ、メディアセンターなどが配置されることとなっています。大会終了後は解体の上、各自治体に返却され、公共施設等に活用されることとなっています。まだまだ先の話ではありますが、大会終了後、あなたのお住いの地域でこれらの木材を目にすることがあるかもしれません。

※ビレッジプラザは選手及び関係者のみが使用可能な施設で、一般の方はご利用にはなりません。

普段の生活に自然の彩りを与える 「つな木」プロジェクト

株式会社日建設計



鋼鉄製のクランプに代わって研究開発中の樹脂製クランプ つな木プロジェクトを進めている「Nikken Wood Lab」の左から大和田さん、大庭さん、中川さん

株式会社日建設計では、持続可能な森林利用の取組の一環として、一般に流通している90mm角や105mm角の無垢材と接合部材（クランプ）、移動用の車輪だけで構築する木材ユニット「つな木」プロジェクトを手がけています。

元々は、社内の新規事業コンペにて提案された「つな木」のアイデア。木材の利用促進が国際的な注目を集めている中、プロの力を借りずに素早く手軽に基本ユニットを組み立てることができるため、オフィス内の打ち合わせスペースや、カフェ・ショップなどの露店、学園祭のブース、また災害時の簡易ルームなど、誰でも屋内外で幅広く活用できます。

現在は、社内プロジェクトチーム「Nikken Wood Lab」を立ち上げ、日々研究開発に取り組んでいます。中でも注力しているのが、軽い樹脂製クランプの開発です。今は鋼鉄製のクランプを使用していますが、樹脂製クランプであれば木材由来であることに加え、さらに手軽に組み立てることが可能になるため、早期の実用化に向けて試行錯誤を繰り返す毎日を送っています。

「つな木」のような個人単位でできる新しい価値観の木材利用が日本の文化として根付くことに林野庁も期待しています。

※無垢材：丸太から切り出したままの自然な状態の木材

『世界に誇る日本の「木のおもてなし」を考える』 インバウンド促進・地方創生・地域材の需要拡大に向けて 公開座談会が開催されました



2月14日(金)神田明神 明神会館にて、建築家の隈研吾氏、(株)小西美術工藝社社長で文化財の修復等にも携わっておられるデービッド・アトキンソン氏、岐阜県立森林文化アカデミー学長の涌井史郎氏の3名をお招きし、標記テーマで公開座談会が開催されました。

近年のインバウンドの増加等を背景に、国内外への更なる木材利用の普及を図るため、林野庁では補助事業(実施：(公社)国土緑化推進機構、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所)を通じて、平成30年度から、日本が培ってきた「木の文化」とそれを活かした多様な「木のおもてなし」について主に来日観光客の視点から再評価をし、新たな形の「木の文化」と「木のおもてなし」を創造・発信する取組を進めています。

平成30年度には、全国各地の木の文化の事例を収集し紹介した「木の文化・木のおもてなしガイドブック」を制作し、地域材の価値を高めるだけでなく、観光やまちづくりに関する事業やサービス等への活用を目指し、地方自治体や旅行・観光事業者等への普及を行いました。

また、令和元年度には、ガイドブックの趣旨に沿う形で、4地域(秋田県大館市、岐阜県飛騨市・中津川市加子母、京都府)にて、地域内の林業・木材産業関係者と観光・まちづくり関係者等が連携し、地域

内に集積された「木の文化」を再整理・編集し、「木のおもてなし」を試行・体験するモデル的なワークショップやツアー等を実施しているところです。

本座談会は、この取組の一環として、当事業の検討委員も務めていただいている隈研吾氏、デービッド・アトキンソン氏、涌井史郎氏をお招きし、開催されました。木の文化を活かした木のおもてなしを通じたインバウンド促進や地方創生、地域材の需要拡大の可能性など幅広い視点から、熱い議論が交わされました。

座談会では、隈氏から、高知県梼原町や国立競

技場などこれまで携わられた取組等における木との関わりをお話いただきつつ、「今、日本の建築は



木の文化・木のおもてなしガイドブック



大館市での試行的ツアーで曲げわっぱの製作を体験する参加者

変わりつつあって、特にレベルの高い部分で木に関する取組が増えてきている。需要が生まれ、いろいろな人が木を使うと新しい技術もついてくる。今後も多様な木の使い方が広がる可能性は大いにあり、悲観してはいない。」とコメントをいただきました。また、アトキンソン氏からは「多くの方々は、日本文化は素晴らしいと感じ、職人の技術に感動するが、それらを自らが買ったり使ったりしていないことは問題。日本人が買って使えば、失われつつ



涌井 史郎氏



隈 研吾氏



デービッド・アトキンソン氏

ある文化も自然に復活するのではないか。」といった問いかけや、ご自身の町屋での暮らしのエピソードを交えながら「日本の暮らしの中にあつた豊かな季節感や文化は、暮らしに手間をかけなくなったことで失われつつある。インバウンドに向け情報発信をしても、そういった文化が一体どこに残っているのか疑問である。」と本質をつくコメントがありました。お話の最後には、「日本の文化は幅があつて奥が深い。文化を深く学び理解することから新しいアイデアが生まれるため、もっと深掘りをする中で、地方創生や経済成長で新しい道が拓くと思う。」とヒントをいただきました。最後に、涌井氏から、お二人の話を受けて、「日本人はシームレスな時間の流れや空間に価値を見出し、そこに非常に手間をかけ、文化的に表現してきた。デジタル社会や Society5.0^{*} は今後も進展を続けるだろうが、日本人として日本の気質みたいなものを十分に理解して、その上で木の文化等をプロモーションしていくことが大切。」と述べられました。

3名の言葉から、日本の「木の文化・木のおもてなし」を創造・発信するにあつたの様々なヒントが得られただけでなく、私たちが木の文化をはじめ日本の文化にこれからどう向き合っていくのか、改めて考えさせられる良い機会になりました。

※Society5.0:「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿とすべしと提唱された。」(出典:内閣府HP (https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html))



今回会場となったのは、神田明神

同敷地内の「神田明神文化交流館 EDOCCO」は、ウッドデザイン賞2019において特別賞「木のおもてなし賞」を受賞しています。神田明神が祀る平将門の伝説が多く残る多摩地域のスギ材を活用しており、空間は神社の荘厳さを継承しつつ、訪れた人々のコミュニケーションを促すデザインになっています。

公開座談会の第2部においては、この文化交流館の現地見学会と、文化交流館をデザインされた(株)乃村工藝社の坂爪研一氏、大西亮氏、ウッドデザイン賞審査委員の鈴木恵千代氏をお招きし、木を活用した魅力ある施設づくりについてお話いただく座談会も開催されました。第1部に引き続き第2部も多くの方々にご参加いただきました。



神田明神文化交流館 EDOCCO



第2部の様子

当事業で制作された「木の文化・木のおもてなしガイドブック」等成果については、以下URLからご覧になれます。 <http://www.green.or.jp/topics/omotenashi/>



2019年度

「わたしの美しい森」

フォトコンテスト」表彰式



居原田氏に本郷林野庁長官から林野庁長官賞の授与



審査風景



表彰式後のレセプション



協賛企業や団体から提供いただいた豪華な副賞



溢れる笑顔の受賞者たち

※当フォトコンテストは、協賛企業からの協賛金のほか実行委員からの分担金（公益社団法人国土緑化推進機構の「緑と水の森林ファンド」の助成を含む）等により実施しています

「わたしの美しい森」フォトコンテスト」入賞作品



近畿中国森林管理局長賞
修行の場・高田 昌弘氏



生活部門優秀賞
国土緑化推進機構理事長賞
ちいさな大冒険・中村 知子氏



審査員特別賞
槍望むライチョウ・加納 頭悟氏

令和2年2月16日、東京都内の株式会社内田洋行新川本社（ユビキタス協創広場CANVAS）にて2019年度「わたしの美しい森」フォトコンテスト」表彰式が行われました。

「わたしの美しい森」フォトコンテスト」は、魅力的で人にお薦めしなくなる国内の森林・山村の風景場面を撮影した写真を募集、表彰するフォトコンテストです。本コンテストを通じて、より多くの方々に



林野庁長官賞
悠久の時を経て・居原 晃嘉氏



景観部門優秀賞 全国森林レクリエーション協会会長賞
冬への懸橋・裴岩 正克氏



協賛企業特別賞 株式会社内田洋行賞
磨丸太・南 真次氏



協賛企業特別賞 三井住友信託銀行株式会社賞
秋を装う三方岩岳・西山 宏氏



審査員特別賞
しげみの中でカフェオレ見つけた・長谷川 裕二氏



中部森林管理局長賞
三宝山からの富士・大黒 俊明氏



審査員賞
朽木が育む・木下 滋氏



生命部門優秀賞 日本森林林業振興会会長賞
運べ！一直線！！・原田 健治氏



協賛企業特別賞 公益財団法人イオン環境財団賞
霧の白樺林・星野 郁男氏



景観部門優秀賞 全国山の日協議会理事長賞
ブナ林の根開き・白山 健悦氏



北海道森林管理局長賞
水面に立ち上がる枯れ木・折笠 吉夫氏



審査員賞
かくれんぼ・小林 三希子氏



九州森林管理局長賞
トロの目・奥村 克氏



東北森林管理局長賞
雪みどりの森・櫻井 勝美氏



四国森林管理局長賞
美しの森への入口・川崎 仁美氏



関東森林管理局長賞
どんと焼きの朝・佐藤 克實氏

表彰式では、入賞された方々へ、表彰状と副賞が審査員や各協賛企業、団体から授与されました。受賞者の表情には笑顔が溢れ、会場は終始和やかな雰囲気になりました。また、表彰式後に行われたレセプションでは、入賞した全19作品のパネルが展示され、福田氏や米氏と受賞者が作品を見ながら撮影時の心境や苦労話、より効果的な

11月29日に開催された写真家の福田幸広氏及び米美知子氏をはじめとする審査員10名による審査会を経て、林野庁長官賞、審査員特別賞等の入賞作品19点が選定されました。

募集テーマは森の風景を撮影した「景観」、森で育まれた生物の営みを撮影した「生命」、森・山村での体験や木材を活用した風景を撮影した「生活」の3部門として、令和元年6月3日～10月7日の約4か月の募集期間に、612点の応募をいただきました。

2017年度に初めて実施して以来2年ぶり2回目の開催でした。募集テーマは森の風景を撮影した「景観」、森で育まれた生物の営みを撮影した「生命」、森・山村での体験や木材を活用した風景を撮影した「生活」の3部門として、令和元年6月3日～10月7日の約4か月の募集期間に、612点の応募をいただきました。

撮影の仕方等、写真談義に花を咲かせていました。

入賞作品について、福田氏から「第2回目を迎え、応募作品がバラエティー豊かになってきたよう嬉しく思います。生命にカメラを向ける時には、相手の生きた証や、物語まで写しとるつもりで臨んでほしいと思います。応募する時には自信を持って大きなプリントでご応募ください。」との講評をいただきました。

米氏からは「景観部門や生命部門は応募数も多く、力作揃いでしたが、定番の撮影地が多かったのも事実です。撮影地の選び方も慎重にされるのいいと思います。生活部門は、森の中の「生活」というイメージが湧きにくかったかもしれませんが、その中でも入賞作品は素晴らしく、「わたしの美しい森」を作者それぞれの視点で表現されていました。」との講評をいただきました。

入賞作品については、今後、協賛企業等が実施する展示会や広報活動に幅広く活用される予定です。また、本情報誌「林野」4月号では、林野庁長官賞、審査員特別賞、協賛企業特別賞及び部門優秀賞の10作品について紹介する予定です。

2020ミス日本みどりの女神からご挨拶



みどりの女神として 人々と森林との架け橋に

みどりの女神としての活動も早くも1ヶ月が経ち、様々な活動をさせていただいています。

静岡県清水にて、緑の雇用ボスターの撮影に行ってきました。心配されていた天気にも恵まれ、和気あいあいと楽しい撮影をさせていただきました。

実際に現場で働かれている方々と共に撮影場所に入りましたが、とにかく斜面が多いのが印象的でした。機械や荷物を持って移動したり作業をされていることを肌で感じました。江藤農林水産大臣は「事故のない林業を目指したい」とおっしゃっていましたが、少しでも事故を減らすためにはどうしたら良いか、応援する側も働いている側どちらもが協力し合い安全な林業を目指せたらと思いました。

皆様初めまして。
2020みどりの女神に就任致しました井戸川百花と申します。
私は緑豊かな多摩にある中央大学に通っておりま
す。周りを見渡せば森が広がり、自然から季節を感じることの出来る素敵なキャンパスです！
私自身は東京都出身ですが、父は福岡県母は秋田
県という自然豊かな地方出身で、帰省の折には自然
に触れてきました。また父の転勤で金沢に3年間ほ
ど住み、少し車を走らせると大自然が溢れていると
いう環境で過ごしました。その為か自然が大好きで
す。

日本の急峻な森林では、伐採するのも伐採した木を運ぶのも多くの人手が必要な上に重労働です。そのためコストが高く、木の流通がスムーズでないということを知りました。日本の木に親しみを感じてもらうためには、まずは今の現状と森林の基礎知識を少しでも多くの人に知ってもらい、木の活用方法や森林での過ごし方を身近なものに感じてもらうこ

とが大切だと思いました。そしてそのことを発信するのが私の役目ですので、森林や木、緑をよく分らない人達との架け橋になれたらと思います。

撮影現場ではもうひとつ、とても不思議に感じたことが、緑を見ているだけで癒されて浄化された気持ちになるということです。現地で働かれている方々も雰囲気や穏やかで、居心地良い空気に充たされていました。

今ある緑を大切に、 自然の魅力を発信したい

森林、みどり、自然の力は私達に生きる力と癒しを与えてくれます。その恩恵に感謝する気持ちを忘れず、この緑豊かな日本があるのは先人の方々の努力によって受け継がれてきたものであり、緑があることは当たり前なことじゃないということ、そして今行われている取り組みやこれから行われる取り組みを少しでも多くの方々に知ってもらえるように幅広い世代の方に発信していきたいです。

学ばなければならぬことがまだまだ沢山あります。これからの様々な体験や皆様からご教示いただきながら、19歳の若さを生かして、森林が若者の憩いの場となるような、全ての人が楽しむ癒しの森を目指します。

みどりの女神として、みどりの広報大使として、一生懸命努めてまいります。
どうぞ宜しくお願い致します。



江藤大臣より、みどりの広報大使に任命いただきました



記者会見室を見学しました



林野庁での挨拶回りの様子



歴代女神も応援に駆けつけてくれました！



緑の雇用ポスター撮影の様子



守りたい 森と未来を 炎から

山火事予防



令和元年山火事予防ポスター展・推進事業
主催：(一財)日本森林林業振興会
後援：文部科学省・消防庁・林野庁・
全国森林組合連合会・森林火災対策協会

山火事予防運動実施中

主唱：林野庁・消防庁

ポスター展
静岡県立伊豆高等学校城ヶ崎分校3年 横野 翼生
徳 島
山口県私立徳山高等学校1年 横野 翼生

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



本誌に使われている紙は、
日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。



「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは

情報誌 林野

検索